

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2025(令和8)年

仏暦2569年

5月号

(第176号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



法住 話職

救いは一方的で仏からの目線



正信念仏偈に学ぶ
感染凡夫信心発
証知生死即涅槃
感染の凡夫、信心発すれば、
生死すなはち涅槃なりと
証知せしむ。

「現代語訳」
煩惱具足の凡夫でもこの信
心を得たなら、仏のさと
りを開くことができる。

親鸞さまは、前の句より続
けて、曇鸞大師が『往生論
註』に述べられたところを
引かれています。

曇鸞大師は、浄土に生まれ
ることも、浄土に生まれてか
らさまざまなはたらきをあら
わすことも、ともに阿彌陀仏
の本願のはたらき(他力)に
よるものであり、浄土に生ま
れる正しい因は、ただ信心一
つであること示されたのです。

そしてこの句では、「惑」
は迷惑という熟語もあるよう
に、迷惑うことです。です
から「感染凡夫」は煩惱に染

まった凡夫である私たちのこ
とです。浄土に生まれる正し
い因は、ただ信心一つだから
こそ感染の凡夫であっても信
心をおこせば仏のさとりも
得られるといわれるのです。
仏道によって煩惱を滅すると
いう表現はよくありますが、
煩惱具足と煩惱が具わったま
ま、生死の迷いの中でさと
りを得られるといわれるので
す。

このあたりからは、複雑な
表現が続くと思います。です
から時に誤解も生むところ
もあります。

ここでは、煩惱が具わった
まま信心を得たなら、他力に
よって救われるのであれば何
をしてもよいのかということ
です。

本来であれば、煩惱が具わ
ったものなど救われるはずの
ないものです。しかし、前回、
法蔵菩薩の四十八の願につ
いてふれました。

わたしが仏になるとき、
すべての人々が心から信じ
て、わたしの国に生まれた
いと願ひ、わずか十回でも

念仏して、もし生まれるこ
とができないようなら、わ
たしは決してさとりを開き
ません。

その中の十八番目の願いで
す。救いが阿彌陀仏の本願の
はたらきによるものでなけれ
ば、法蔵菩薩が仏にならな
いとまで言われたこの願いも
無意味なことになるといわれ
たのです。つまり、私たちが
救いをもとめて判断するもの
ではなく、救いは一方的で仏
からの目線だということ
です。煩惱を取り除くことなど
出来ないものが救われなくて
はと仏の側から力をもって
救ってくださるのです。

ですから、何をしてもよい
と救いに甘えることではな
く、私たちは、仏からの救
いに只々感謝するしかない
ということ。煩惱に気づか
されながら乗り越える試練は
常に与えられているというこ
となのでしょう。



仏教語豆事典

威儀

ぜんしゅう
禅宗では「イイギ」

「威儀を正して授賞式に参列しました」というように、「威儀を正す」とは、形を整え、作法にかなった立ち居ふるまいをすることをいいます。

「居ずまいを正す」とも、「威儀を繕う」ともいいますね。

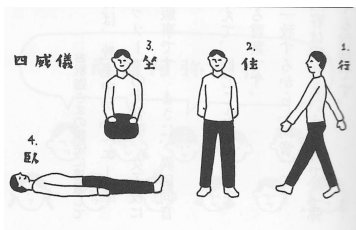
仏教では、行(歩くこと)、住(とどまること)、坐(すわること)、臥(寝ること)を「四威儀」といい、それぞれに守るべき戒律が定められています。だから、威儀は日常生活での一切の行動を包括しているのです。

禅宗では「イイギ」と読み、規律にかなった正しい立ち居ふるまいをいいます。

戒律上の細やかな作法や規則も威儀といい、小乗には三千威儀、大乘には八万威儀と、戒律の異名にもなっています。

また、袈裟の肩上から前後に通じる平紬の紐も威儀と呼んでいます。

現代では、威儀を正さなければならない場面が少なくなってきたようです。しかし、そのことが心の乱れにつながるようなしなすね。



安楽

あみだぶつ
阿弥陀仏の極楽浄土のこと

安楽は、心身に苦痛がなく、この上もなく楽な状態をいう日常語です。

休息用のひじかけ椅子を「安楽椅子」といったり、助かる見込みのない病人を、苦痛なく死なせることを「安楽死」といって、社会問題になったりします。

仏教では『無量寿経』に「その仏の世界を名づけて安楽という」とあるように、安楽は阿弥陀仏の極楽浄土のことをいいます。

安楽国、安楽仏土、安楽浄土、または安養浄土など、さまざまな表現がなされていますが、みな阿弥陀仏の世界のことです。

また、禅でも安楽法門というのがあり、身は安らかで心楽しく行える坐禅をいいますから、そこに至るにはなかなかの修行ではないはずで。

安楽とか極楽というと世間的な快樂が満ちていて、そこで安楽に暮らすように思う人がいますが、果たして、そうですか。

浄土に往生して悟りを開いた人は、この世に帰って来て、迷える人びとに利益を与えることに窮まりがない、と説かれています。

たいへん忙しいようですよ。



「くらしの仏教語豆事典」文・辻本敬順 絵・寄藤文平／本願寺出版社刊より

編集後記

「正信念仏偈に学ぶ」連載は、今回の句でちょうど真ん中になり半分が終わりました。◆法話は少しでもわかりやすい表現を目指していますが、難しくなってきました。悩むことばかりで編集も滞ることが多くなりますが、引き続きよろしくお願ひ致します。



年忌法要表

1 周忌	2025(令和 7)年	23 回忌	2004(平成16)年
3 回忌	2024(令和 6)年	25 回忌	2002(平成14)年
7 回忌	2020(令和 2)年	27 回忌	2000(平成12)年
13 回忌	2014(平成26)年	33 回忌	1994(平成 6)年
17 回忌	2010(平成22)年	50 回忌	1977(昭和52)年